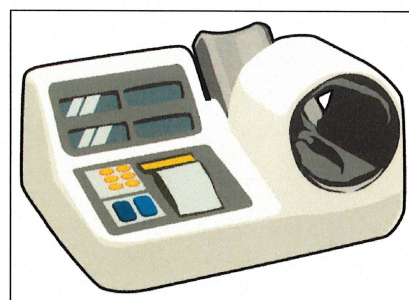


高血圧

抗がん薬によっては高血圧になることがあります。
治療前から普段の血圧の値を把握しておく必要があります。

生活の注意と工夫

- 1日2回は血圧測定し記録しましょう。
記録したものは診察時に医師や看護師等に見せて下さい。
必要時、降圧薬を飲みながら治療を継続していきます。
- 減塩を中心とした食事（厚生労働省が推奨する食塩摂取量の目標値は男性9g/日未満、女性7.5g/日未満）、適度な運動、禁煙を心がけて下さい。
- 普段の血圧で急激または著しい血圧上昇（180mmHg/120mmHg）があった場合、また頭痛・意識レベルの変化・片麻痺・嘔吐などの症状が出現した時は必ず連絡して下さい。



タンパク尿

抗がん薬の種類によっては、尿にタンパクがでてくることがあります。多くは無症状であるが、重症化すると、ネフローゼ症候群（尿にたくさんタンパクが出てしまうために血液中のタンパクが減り、その結果、むくみが起こる疾患。高度になると肺やお腹、心臓などに水がたまってくる。）を引き起こす場合があるため、症状の早期発見のために定期的な尿検査を行います。



生活の注意と工夫

- 尿量や尿の回数に変化がないか確認しましょう。
12時間以上排尿がない、尿量が非常に少ない場合は医師や看護師等に報告して下さい。
- むくみや日々の血圧に変動がないか確認しましょう。
- 尿検査でタンパク尿がでた場合、腎臓に負担をかけないようにタンパク質・塩分を控えめにした食事を心がけましょう。
また、風邪などでも腎臓に負担がかかるので、感染予防にも心がけましょう。